



発行所
三池炭鉱労組
大牟田市不知火町2
電話 330334
編集兼 渡田 紀生
発行人 年刊600円 送料共

賃金とるため
今から立ちよう
炭労の賃上げ闘争は非人間的な
回答をもつて終った。いま組合内
部で賃金問題に関する具体的な対策
についての議論がすすんでいて、
近く集約されるが、しかし現場と
家庭からは早くも、いっそうはけ
しく賃上げを要求する声が高まっ
ている。

処分を受けた人々の手もとには
毎日各現場から激励の手紙が寄
られ、また四山の第五分會現場新
聞がこの問題を詳細にとりあげて
いるように、いろいろな形でそのこ
とを反映している。
たとえば三川指導部の現場一分
會の石松政雄さんから寄せられた
激励の手紙は、次のように共闘を
誓っている。
「今回の不当処分に対して限り
は広がっている。」

に広がることをおそれていま
す。会社はスタートした新炭
政策の方向にそって、シャム
三池における二万トン体制(一
日の出炭量)の維持発展をめ
ざっており、そのためには、ど
うしても出炭目標を達成できぬ
官浦を何とかしなければならぬ
とのあせりが、こんどの弾圧と
なっているのです。従って
私たちは第一に、こんな理不尽
なり方と妥協することはでき
ず、いかなる弾圧がきても断固
闘うこと。第二にこの闘いを発
展させてゆきさえすれば、必ず
連帯は強まる——との確信のう
えに立って、闘ってゆく決意で
「写真は抗議の集会」

【KN】総評
中立労連などの春
闘共闘委員会が五
月二十四日東京・
目黒の動力車会館
で春闘総括を討議
決定した。
岩井事務局長は
「ことしの春闘は
「大衆がたかい
取った春闘とい
うことであるよ
うだ」と述べ、金
額の面で満足とは
とうていいえないが今後の前進の
基礎をつくった高橋かちらるに
は長期ストが必要だという意識が
浸透した③中小・未組織労働者
をたたきこむことは十分
分た④臨時工や下請けなどを含め
た労働条件の改善ということが必
要だ⑤政治闘争との関連も前進
したと自信をもっている、など
を指摘した。
そのほか私鉄総連が「七〇年春
闘では資本家はもっと金をだした
ろう。われわれの方がハイをいま
でよ、ということにならないよう
に、いまだから安泰の教育やたか
いを準備しよう」と語ったことは
注目すべき問題を含んでいる。

不当処分を撤回せよ

組合、ストライキ打ち抗議



宮浦指導部の怒りの立て看板

三池炭組は去月二十六日から三十一日にかけて、ぐり返りストライキを打った。このストライキは同月二十六日を期して三井鉱山が、かねてその意のあることを明らかにしていた、宮浦指導部に所属する八人の三池炭組員に対する、不当処分を強行したことに対する抗議であるとともに、「不当処分の撤回・保安法規則規程の完全実施」を要求する組合としての実力行使であった。

「文句いわずに働け」

生産第一主義貫く三井鉱山

不当処分は、新炭政策を積極的におしすすめる、あくまで二万トンの維持・発展をたくむ三井鉱山が、それに抵抗するエネルギーを封殺するために打った弾圧である、と見ているが、とまれこんど処分を受けた人々は次の通りである。
(敬称略)
懲戒解雇 江上正弘(主任・中央委員)
出動停止十五日間 藤沢孝雄(組合役員・宮浦指導部長)
出動停止十日間 平田憲二(主任・中央委員・分會長)
出動停止三日間 野田広喜(主任・代議員)
出動停止三日間 下園政勝(主任・代議員)
山川徳衛(主任・代議員)

その後のZD

今日は何かね ZDだな
あがってからはいそがしか ZDだな
残業になつてやるもん ZDばした時間だけつづける
そのがたい
わすかの残業たい
家に帰つて暗くなつては
あんなに何回もZD
俺も行かんはい何にもならんが
俺もやめた
かあちゃん待ってとらす
おと(九号)から
四山五分會のあし
おと(九号)から
「歌志内のようにガスの多いところでも、会社は出炭をいそぐあまり、採炭作業にかかる以前に当然やらなければならない先進ボーリングを十分行なわないう。また、採炭を強行しようとしたために起きた惨事と言われている。三池の現場の怒りはあんな形で現れたが、中にはささく恥として表彰を受けたばかりだとの場新聞がその事故をとりあげて抗議した例もある。その中の一つは

17人死亡、33人重軽傷

歌志内の災害に怒り湧く

五月十六日北海道の住友炭坑内、鉱山の保安無視・生産第一主義と聞いている三池の全現場にはけしきい怒りが湧きあがった。
この歌志内炭坑はその前に鉱山保安監督局から「保安優良鉱山」として表彰を受けたばかりだとの場新聞がその事故をとりあげて抗議した例もある。その中の一つは

「歌志内のようにガスの多いところでも、会社は出炭をいそぐあまり、採炭作業にかかる以前に当然やらなければならない先進ボーリングを十分行なわないう。また、採炭を強行しようとしたために起きた惨事と言われている。三池の現場の怒りはあんな形で現れたが、中にはささく恥として表彰を受けたばかりだとの場新聞がその事故をとりあげて抗議した例もある。その中の一つは

今胸に燃える誇り

杵島労組、遂に解散

去月十八日杵島炭坑労組(組合員千八百人)は、大町町小学校的講堂で、組合解散大会を開催した。組合員ははるがわたり、この石炭政策の発足と同時に、はじまった炭坑の閉山旋風は、ついに杵島炭坑をも閉山に追いこんだ。
炭坑の組織の中で「国有化」を要求していた同労組は、はじめ閉山提案を認めず強行出炭などで闘ったが、四項にわたる退炭条件について話し合いがまとまり、閉山を受け入れたものである。
組合解散大会には宮川組合長も出席したが、組合員はかわるがわる語った。
「炭坑の組合員であつてよかった。杵島炭坑労組の組合員として闘ってきたことを誇りに思う。杵島を閉山に追いこんだものはかたがた資本主義だから、自分たちがこれからはとてへ散つてゆこうと闘いはつて、三池が百十三日間闘い抜き、退炭勧告状を会社につき返し



(写真は抗議の集会)

闘いとった大衆の力

春闘共闘「春闘の総括」を決定

【KN】総評
中立労連などの春闘共闘委員会は五月二十四日東京・目黒の動力車会館で春闘総括を討議決定した。
岩井事務局長は「ことしの春闘は「大衆がたかい取った春闘ということであるよ」うだ」と述べ、金額の面で満足とはとうていいえないが今後の前進の基礎をつくった高橋かちらるには長期ストが必要だという意識が浸透した③中小・未組織労働者をたたきこむことは十分分た④臨時工や下請けなどを含めた労働条件の改善ということが必要だ⑤政治闘争との関連も前進したと自信をもっている、などを指摘した。
そのほか私鉄総連が「七〇年春闘では資本家はもっと金をだしたろう。われわれの方がハイをいまでよ、ということにならないように、いまだから安泰の教育やたかいを準備しよう」と語ったことは注目すべき問題を含んでいる。